

NEVER

前城光華



NEVER

NEVER

- 目次 -

NEVER

[2014.09.18]

敬愛する向田邦子さんのエッセイ集「夜中の薔薇」には、彼女の有名な作品「手袋をさがす」が収録されています。20代の初め頃に出逢って以来、今日まで愛してきた作品です。そして、久し振りに頁を開いてみました。

22年間の「NEVER」を一度に取りもどした、そんな向田さんの青春時代。同じ頃、私は22年間の「NEVER」を取りもどせないまま、更にひとまわりもの歳を過ごしてきました。

かつては幼かった私も、この夏に34歳となり、それにつれ、取りもどせなかった「NEVER」について、あれこれ感じる日々です。とはいえ、実は小さな意味でのそれは、少しずつかも知れませんが、私なりに取りもどしてきた部分もあります。しかし、同時に失ったものも、決して少なくはありませんでした。

色々な経験をしました。この心の中に、底知れぬ穴も空き、禍福を糾（あざな）い乍らに何とか生きてこられた、というのが実感であり、そうして考えてみますと、このまま死ぬまで「NEVER」を取りもどせなくとも、別に良いのかも知れないと、そう思ったりもしています。

あれは一種の「若さ」だったのかも知れません。たかだか少しの失敗を取りもどしたい、取りもどさねばと、むやみに焦った青春時代について。今から4年前、ちょうど30歳を過ぎた頃、2010年11月25日、新たに作ったウェブサイトとブログのタイトルを、私は「NEVER」と名付けました。

もう焦る必要はない。そう自らに言い聞かせるように、この言葉を私の人生のタイトルとしました。

それから更に4年の月日を重ね、今また改めて、この「NEVER」への思いに立ち返ってみたいと考え、新たにウェブサイトとブログ、その他を一新したいと思いました。この目の前に、何かしら得体の知れないものを、時代も含めて感じつつ。

人間の命など、いつ消えるかも知れぬものです。しからば少しでも、「今」を生きている証を、このまぎれもない「今」という時に刻み、そうして悔いなき人生を歩み続けていけたらと、切なさまじりに願っています。

人はいつでも死ぬるのだから、人はいつでも生きられる。たとえ死を目前にしたところで。人は、「今は今、私は私」と、そう確信を以って言えた瞬間に、この世の栄達も名誉も何も、全く要らなくなる。そして私は、そうなりたいと心底思う。

人は人であり、自分は自分。だから「NEVER」を、きっと越えられる。いつだって取りもどせるはず。いや、取りもどす必要もないはず。いつだって、あらゆる「NEVER」の中を、人は生きているのだから。

私の「NEVER」は、私のもの。誰のものでも、ありはしない。私だけの「NEVER」を、ただ静かに見つめていたい。たとえ次の瞬間、壮絶か無念のままに死ぬとしても。いや、私に無念などない。何もない。私だけの「NEVER」を愛す。

[2014.09.18]